第３学年Ｂ組　道徳科学習指導案

日　時　令和３年２月１２日（金）５校時
生徒数　３２名
指導者　教諭　　教諭

１　**主題名**　私にもできる国際貢献　【内容項目 C-(18)　国際理解・国際貢献】
２　**教材名**　命のトランジットビザ　『明日を生きる３』日本文教出版
３　**指導について**

○ ねらいとする価値について

日常生活の中で社会連帯の自覚に基づき，あらゆる時と場所において協働の場を実現していく努力こそ，平和で民主的な国家及び社会を実現する根本であり，国際的視野に立って世界の平和に貢献することにつながる。人間の存在や価値について理解を深め，よりよい社会が形成されるよう人類の発展に貢献する意欲を高めることが求められる。〈中学校学習指導要領解説：道徳編 3-2-C-18-(1)〉

国際貢献と聞いて中学生がイメージするものは何か。偉大な先人や著名人の活躍，国同士の関係など，自分とは縁遠いものではないか。それは，国際貢献が行為として語られることに原因があると考える。先人に学ぶことは大切である。しかし，同じ行為を求めることに意味はない。重要なのは，行為を下支えする博愛の精神に思いを馳せ，自分自身による将来の行為への期待を抱くことである。家族や隣人を愛する態度の延長線上に国際貢献があるという考えに立ち，諸外国の人々に偏見をもたない誰もが，それをできるのだと信じたい。

○ 生徒の実態について

本学級の生徒は，これまでの道徳の授業において，様々な教材・内容項目に対して，積極的に取り組んできた。どの教材においても，自分の考えを素直に発言することができる生徒が多い。発言が少ない生徒もいるが，自分の考えをもとに，友人の考えを聞くことで，考えを深めたり，新しい考えに触れて広げたりできる。

学校生活を送る中で，困っている人がいるとすぐに手を差し伸べる姿が多く見られる。１月に行ったBEINGでは，共感する力が高いとの結果が出ており，相手の立場になって考えることができる生徒が多いためだと考えられる。

○ 教材について

第２次大戦中のリトアニアが舞台である。領事代理だった杉原千畝が，ナチスドイツの迫害から逃れようとするユダヤの人々に対して苦悩の末に独断で通過ビザを発給し続け，それをもとに6000もの命が救われたという実話である。政府関係者としての立場，彼自身の思いや態度に着目することにより，苦悩の末の行為の意味が垣間見えてくる。

また，副教材として，ドイツ公共放送ＺＤＦ「日本とユダヤ人」(2020.12.19放送）より抜粋した動画（日本語字幕付き）を用いる。通過ビザを受けたユダヤの人々の，神戸市滞在中の様子が証言されている。彼らに対して，一般市民がどのように接していたのかが分かる貴重な資料である。

○ 指導にあたって

困っている人々の助けになりたいという思いが，杉原をはじめとする人々の心情にあったからこそ，ユダヤの人々は救われたのだというストーリーを描く。行為の大きさに関わらず，思いやりや公平な心，博愛や反差別の精神，良心を貫く勇気等をもっていれば，自分にも国際貢献ができるのではないかという期待感を抱かせたい。したがって，最終的にビザ発給に至った杉原の心情や，ユダヤ人救済に関わった人々に共通する思いを考えさせて，博愛の精神が人々の間に広く存在していたことに気付かせたい。また，「もしも，杉原が外交官でなかったらどうしたか」という発問から，どんな立場であっても国際貢献ができるという可能性に気付かせたい。

終末では，導入時と主題発問への意見を比較する。隣人を助けたいという思いと，国際貢献に向かう心情が，実はリンクすることに気付かせ，そのような意味において，教室にいる誰もが国際貢献のスタートを切っていることを確認し合いたい。

4　本時について

(1) ねらい

人道支援という国際貢献への憧れや，自分にもできるという期待感をもたせる。

(2) 展開

	学習活動 発問（○・◎）　学び合い活動（★）	引き出したい生徒の意見	教師の働きかけ（○） 評価（◆）
導入	1　本時の学習内容を知る ○ 隣の人が困っていたら，どうするか。	・助ける　・様子を伺う ・できることをする	○ 学級の写真を見せる
／	2　教材を読む ○ ユダヤの人々は，どうして長い距離を通ってまで日本に行きたかったのだろうか。	・逃げたい ・殺されるから ・安全な場所に移動したい	○ 地図を使って，位置（リトアニア，シベリア鉄道，ウラジオストク，日本など）を確認する
展開	○ 杉原が「眠れぬ夜を過ごした」のはなぜか。	・悩んだから ・立場上，助けられない？	○ “悩んだ”に対して，どうしてか尋ねる。 →自分の考えと自分の職
	○ 「日本政府は，ビザを認めていない」のに，ユダヤの人々が来日できたのはなぜか。	・日本を通過することを許可した人がいたから ・受け入れ先があったから ・関わった人が，杉原と同じ考えだったから	○ 実際にユダヤの人々と関わった人の動画を見せる。
	○ もしも杉原が外交官ではなかったら，ユダヤの人々を目の前にしてどうしただろう。	・ビザ発給を一緒に頼む ・食べ物を分ける ・無料で薬を出す ・無料でお風呂に入れる ・一緒に遊ぶ	○ ビザ発給の視点からはなれなかったら →杉原が農家だったら？ 医者だったら？ 風呂屋だったら？ 子どもだったら？
	3　道徳的価値について考える ★【学び合い活動】（フリー） ◎ 杉原たちを駆り立てたのは，どんな思いだろう。	・助けたい ・誰かの役に立ちたい ・同じ人間だから ・自分の信念を大切にする ・人としての正しさ	○ 学び合い活動（フリー） → 個人（記入まで） ◆ 対話により，多面的・多角的な見方ができたか。（観察・WS） ○ 国際貢献は難しいことではなく，私たちの気持ちが始まりであることに気づかせる。
／	4　感想を書く		◆ 国際貢献は，日常生活の延長線上にあることを理解できたか。(WS)
終末	5　教師の話を聞く		◆ 道徳的価値を今後の生活に生かそうとしているか。（WS）